

新品種・新技術活用産地育成プログラムに関する事業評価票

都道府県名	市町村名	事業実施主体名	対象作物・畜産物名	事業実施初年度	成果目標の具体的な内容	成果目標の達成状況								具体的な取組内容	地方農政局長（生産局長、内閣府沖縄総合事務局長）の意見
						基準年	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目 (目標年)	目標値	達成率		
						平成27年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年				
愛媛県	-	愛媛県酒米推進コンソーシアム	酒造用米	平成29年度	(誤) 販売額 693,267千円 (増加販売額 129,112千円)  (正) 販売額 196,572千円 (増加販売額 129,112千円)	(誤) 販売額 564,155千円  (正) 販売額 67,460千円	107,579千円	431,660千円	540,952千円	400,583千円	384,920千円	(誤) 販売額 693,267千円  (正) 販売額 196,572千円	(誤) 達成率 ▲138.8%  (正) 達成率 245.9%	・推進会議の開催 ・実証ほの設置 ・マニュアル等作成 ・PR活動の実施	成果目標の設定にあたり、事業実施主体において、基準年の販売額を誤記し、目標値を誤って過大に設定していた。このことについて、事業実施主体及び国における計画内容に係るチェックが不十分であったことは否めず、再発防止策として、それぞれにおいて、根拠資料を確認する等、十分なチェックを行うことで申し合わせている。  事業の取組結果については、加工品（日本酒）の販売額が大幅に増加し、令和元年度には約8倍である540,952千円となった。その後、新型コロナウイルスの感染拡大により、目標年である令和3年度においては売上は384,920千円にまで落ち込んだものの、正しい基準値と比較すると、317,460千円と大幅に販売額が増加している状況である。  達成率について、事業実施時の誤った目標値で算定すると▲138.8%となるものの、前記のとおり事業成果としては十分発現されていること、未達の原因が事務手続の誤りに起因するものであることから、本件については、改善報告を求めず、評価を終了することが適切と考える。

新品種・新技術活用産地育成プログラムに関する事業評価票

都道府県名	市町村名	事業実施主体名	対象作物・畜産物名	事業実施初年度	成果目標の具体的な内容	成果目標の達成状況										具体的な取組内容	地方農政局長（生産局長、内閣府沖縄総合事務局長）の意見
						基準年	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目（目標年）	目標値	達成率		
						平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年				
愛媛県	今治市	越智今治地域花木産地化推進コンソーシアム	花木（ビブルナム、ピットスポラム）	平成27年度	販売額25,200千円 （増加販売額24,190千円）	1,010千円	2,353千円	7,187千円	7,344千円	15,822千円	11,141千円	14,529千円	19,499千円	25,200千円	76.4%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 苗生産・大苗育苗技術の構築のための栽培実証</li> <li>・ 花木生産技術の確立のための栽培実証</li> <li>・ 主要出荷市場等での販売促進活動</li> <li>・ ブランド化検討会</li> <li>・ 販売体制の検討</li> <li>・ 出荷規格・出荷形態の検討</li> </ul>	花木栽培者、栽培面積は、年々増加傾向にある。一方で、少雨や高温等の気象影響で枯死株が発生し、特に令和元年度から2年度にかけ植え直しを実施したことから、出荷量増加にすぐに反映されにくく、目標を達成していない。今後、目標達成に向けた改善計画を策定するよう指導する。

新品種・新技術活用産地育成プログラムに関する事業評価票

都道府 県名	市町村 名	事業実 施主 体名	対象作 物・畜 産物 名	事業実 施 初年度	成果目標の 具体的な内容	成果目標の達成状況										具体的な 取組内容	地方農政局長 (生産局長、内 閣府沖縄総合事 務局長)の意見	
						基準年	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目 (目標年)	目標値			達成率
						平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年				
愛媛県	西条市	産地活 性化・ブ ランド化推 進コン ソーシ アム	柿(太 天)	平成26 年度	販売額27,000 千円 (増加販売額 19,787千円)	7,213千円	10,703千円	15,661千円	17,187千円	21,090千円	20,895千円	28,993千円	32,077千円	32,892千円	27,000千円	129.7%	<ul style="list-style-type: none"> <li>栽培マニ ュアルの作成</li> <li>高品質果 実の安定生 産と省力化 のための平 棚栽培の実 証</li> <li>汚損果の発 生軽減効果 の実証</li> <li>講習会の開 催</li> <li>販売促進活 動</li> <li>等</li> </ul>	生産出荷体制 の確立により太 天のブランド化 が進み、成果目 標を達成した。
愛媛県	宇和島 市	宇和 島・ブラ ッドオレ ンジ生 産加工推 進コン ソーシ アム	ブラッ ドオレンジ (タ ロッコ・モ ロ)	平成26 年度	販売額50,000 千円 (増加販売額 16,116千円)	33,884千円	75,184千円	67,744千円	68,389千円	112,297千円	50,106千円	93,684千円	78,496千円	69,635千円	50,000千円	221.8%	<ul style="list-style-type: none"> <li>栽培マニ ュアルの作成</li> <li>着色改善の 実証</li> <li>長期貯蔵技 術の実証</li> <li>メディア出 演等によるブ ランドの周知 活動</li> <li>講習会の開 催</li> <li>販売促進活 動</li> <li>等</li> </ul>	栽培技術を向 上させ販促活 動を行ったこと によりブランド 化が進み、成果 目標を達成した。

新品種・新技術活用産地育成プログラムに関する事業評価票

都道府県名	市町村名	事業実施主体名	取組内容 (対象作物・畜種等名)	事業実施 初年度	成果目標 の具体的 な内容	成果目標の達成状況(千円)										取組内容	地方農政局長(北海道農政事務 所長、内閣府沖縄総合事務局長) の評価所見		
						基準年 (A)	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標年(6年目)		7年目	目標年(8年目)			目標達成状況 ((E-D)/(D-A) ×100)	
												目標値 (B)	実績 (C)		目標値 (D)				実績 (E)
山口県	全域	長州黒かしわ振興コ ンソーシアム	長州黒かしわ	平成26 年度	販売額 100,000千 円(増加 販売額 63,900千 円)	(平成25年度)	(平成26年度)	(平成27年度)	(平成28年度)	(平成29年度)	(平成30年度)	(平成31年度)		(令和2年度)	(令和3年度)		53%	<p>新型コロナウイルスの影響により、卸先の外食産業の売り上げ減少が影響したほか、小ロット製造によりコストが上昇し、商品価格に上乘せしたことが要因となり、販売量が伸び悩んだことから、成果目標を達成していない。今後、目標達成に向けた改善計画を策定するよう指導する。</p> <p>・講習会の開催 ・研修会の開催 ・地域のイベント協賛 ・プレゼント企画の実施 ・新規需要の開拓</p>	
徳島県	全域	徳島県阿波とん豚ブ ランド確立対策協議 会	阿波とん豚	平成26 年度	販売額 54,000千 円(増加 販売額 51,000千 円)	(平成25年度)	(平成26年度)	(平成27年度)	(平成28年度)	(平成29年度)	(平成30年度)	(平成31年度)		(令和2年度)	(令和3年度)		60%	<p>道の駅やJA直売所での販売が増加したほか、ふるさと納税の返礼品として商品提供したことから、前回の実績から約10,000千円増額する事ができたものの、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、販売先の料理店が閉店するなど、大きな影響を受けたことから販売額が伸び悩み、成果目標を達成していない。今後、目標達成に向けた改善計画を策定するよう指導する。</p> <p>・講習会の開催 ・研修会の開催 ・機・ポスター、パンフレット、ブランドシールを配布 ・出荷豚の肉質調査を週1回実施</p>	

別記様式第6号（別記3の第10の3関係）

戦略作物生産拡大支援事業（低コスト米生産産地育成支援事業）に関する事業評価票

都道府県名	事業実施主体名	対象作物	事業実施初年度	成果目標の具体的な内容	成果目標の達成状況							具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
					基準年	事業開始年度	事業開始1年後	事業開始2年後	事業開始3年後 (目標年) 令和3年	目標値	達成率		
					平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年				
徳島県	徳島県農業再生協議会	水稻	平成30年度	米の生産コストを1割削減	生産コスト (円/60kg) 24,487	生産コスト (円/60kg) 21,487	生産コスト (円/60kg) 20,742	生産コスト (円/60kg) 18,086	生産コスト (円/60kg) 17,554	生産コスト (円/60kg) 21,972	276%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 検討会の開催</li> <li>・ 実証ほの設置</li> <li>・ 栽培マニュアルの作成</li> <li>・ 多収品種の導入実証</li> <li>・ 食味・官能分析</li> </ul>	適切に事業実施し、目標を達成している。

養蜂等振興強化推進事業のうち花粉交配用蜜蜂の安定調達支援事業に関する事業評価票

都道府県名 (産地名)	協議会名	事業実施年度	具体的な 取組内容	取組の実施時期、事業量等	成果目標の 具体的な内容	成果目標の達成状況				事業内容	地方農政局長等の意見
						基準年 (計画策定時) 平成28年	目標年 令和3年	目標値	達成度合		
香川県	香川県交 配用蜜蜂 振興協議 会	平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 協力プランの作成 交配用蜜蜂の安定的供給と、価格の据え置きについて必要数量や供給量の情報交換を行い、円滑な供給体制を整備する。</li> <li>・ 花粉交配用蜜蜂の安定確保のための技術実証 新型巣箱を用いた蜜蜂の衛生的な飼育、ダニ対策による蜂群の強勢を図り交配用蜜蜂の安定的供給に資するための実証試験を行う。</li> <li>・ マニュアルの作成、講習会の開催等 実証試験の結果を他養蜂家へ波及させるための活動に関するマニュアルの作成や交配用蜜蜂の生存率向上のための使用方法等の講習会を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 協力プランの作成のための検討会の開催 (8月、12月、3月・計3回)</li> <li>・ 技術実証試験の実施 (6～11月)</li> <li>・ マニュアルの作成及び講習会の開催 (2月)</li> </ul>	事業実施地域において、園芸農家から養蜂家に返却された蜂群の生存率が5ポイント以上向上すること。	59.8% (返却された蜂群数512箱/貸し出し前の蜂群数856箱)	65.5% (返却された蜂群数561箱/貸し出し前の蜂群数856箱)	67.1% (返却された蜂群数915箱/貸し出し前の蜂群数1,364箱)	128.1%	<p>新型巣箱による飼育環境の改善によって夏季の蜂の減少を大幅に抑えることができた。その為、以前より秋季の群勢が大きくなったことで、出荷時の成蜂数増加と育児・産卵圏の拡大等の効果があり、出荷時の製品品質が向上した。これらの理由が交換率を下げ、生存率の向上につながっている。</p> <p>また、例年課題となっている農薬等の影響とみられる成蜂の急激な減少による交換については、農協指導員や普及センター等の農薬使用後の換気の徹底、影響日数の厳守やハウス外への適切な退避といった技術指導や呼びかけにより理解が広がりつつあり、昨年よりさらに減少傾向が見られた。</p>	事業実施計画に沿った取組により、生存率が向上し、成果目標を達成することができた。

産地活性化総合対策事業の薬用作物等地域特産作物産地確立支援事業(薬用作物産地確立支援事業)に関する事業評価票

【再評価】

都道府県名	事業実施主体名	対象品目名	事業実施年度	成果目標の達成状況(成果目標:栽培面積(a)、生産量(トン))																事業内容 〔具体的な 取組内容〕	地方農政局長の意見				
				基準年 平成23年		1年目 平成27年		2年目 平成28年		3年目 平成29年		4年目 平成30年		5年目 令和元年		6年目 令和2年		目標年 令和3年				目標値		達成率 (%)	
				栽培面積 (a)	生産量 (トン)	栽培面積 (a)	生産量 (トン)	栽培面積 (a)	生産量 (トン)	栽培面積 (a)	生産量 (トン)	栽培面積 (a)	生産量 (トン)	栽培面積 (a)	生産量 (トン)	栽培面積 (a)	生産量 (トン)	栽培面積 (a)	生産量 (トン)			栽培面積 (a)	生産量 (トン)	栽培面積 (a)	生産量 (トン)
鳥取県	倉吉市	カラスピシヤク 【生薬名:ハンゲ】 (1~2年)	H27	0	0	4.28	0	4.45	0	7.9	0.02	3.04	0.017	0.28	0.0035	5	0.025	5	0.04	60	0.5	8.3%	8.0%	・検討会の開催 ・実証ほの設置(4.28a)	種芋の増殖に取り組み、毎年2倍増殖することが可能になったものの、製薬会社からの種芋提供に限りがあり、十分な量の種芋の確保が難しいことから栽培面積を拡大できず、目標の達成に至っていない。 今後、県やJAと連携しながら種芋生産技術を高める他、新たな協力企業を模索し、目標達成に向けた改善計画を策定するよう指導する。
都道府県名	事業実施主体名	対象品目名	事業実施年度	成果目標の達成状況(成果目標:栽培面積(a)、生産量(トン))																事業内容 〔具体的な 取組内容〕	地方農政局長の意見				
				基準年 平成24年	1年目 平成28年	2年目 平成29年	3年目 平成30年	4年目 令和元年	5年目 令和2年	目標年 令和3年	目標値	達成率 (%)													
				栽培面積 (a)	生産量 (トン)	栽培面積 (a)	生産量 (トン)	栽培面積 (a)	生産量 (トン)	栽培面積 (a)	生産量 (トン)	栽培面積 (a)	生産量 (トン)	栽培面積 (a)	生産量 (トン)	栽培面積 (a)	生産量 (トン)	栽培面積 (a)	生産量 (トン)	栽培面積 (a)	生産量 (トン)	栽培面積 (a)	生産量 (トン)		
山口県	山口県	トウキ 【生薬名:トウキ】 (1~2年) シャクヤク 【生薬名:シャクヤク】 (3~5年) 〔ミシマサイコ〕 【生薬名:サイコ】 (2年) ドクダミ 【生薬名:ジュウヤク】 (2~3年) セネガ 【生薬名:セネガ】 (1年)  ※改善計画でミシマサイコを除く4品目に品目見直し	H28	0	0	117	1.59	160	0.68	197	4.24	227	5.72	292	6.3	366	8	439	18.14	83.4%	44.1%	・検討会の開催 ・実証ほの設置(57a) ・農業機械の改良(トウキ収穫機)※ ・栽培マニュアルの作成(5品目)  ※ウド用の振動掘取機を改良してトウキの収穫作業省力化	トウキやシャクヤクは、実需者からの品質の評価が高く、栽培面積及び生産量が着実に拡大している。一方、セネガが自家採種した種子の発芽率が悪く、安定的な採種量を確保するための技術が確立されていないこと、ドクダミの雑草防除技術を確立できておらず、出荷規格に見合った生産量を確保できていないこと等から目標の達成に至っていない。 今後、トウキ、シャクヤクは収穫・調製作業の省力化等によりさらなる栽培面積の拡大を行い、ドクダミは雑草防除方法の見直し、セネガは採種体制の確立を進める等、目標達成に向けた改善計画を策定するよう指導する。		
都道府県名	事業実施主体名	対象品目名	事業実施年度	成果目標の達成状況(成果目標:栽培面積(a)、生産量(トン))																事業内容 〔具体的な 取組内容〕	地方農政局長の意見				
				基準年 平成24年	1年目 平成28年	2年目 平成29年	3年目 平成30年	4年目 令和元年	5年目 令和2年	目標年 令和3年	目標値	達成率 (%)													
				栽培面積 (a)	生産量 (トン)	栽培面積 (a)	生産量 (トン)	栽培面積 (a)	生産量 (トン)	栽培面積 (a)	生産量 (トン)	栽培面積 (a)	生産量 (トン)	栽培面積 (a)	生産量 (トン)	栽培面積 (a)	生産量 (トン)	栽培面積 (a)	生産量 (トン)	栽培面積 (a)	生産量 (トン)	栽培面積 (a)	生産量 (トン)		
山口県	山口市	カンゾウ 【生薬名:甘草】 (2年)  クロモジ 【生薬名:烏梅】 (5年)  ※改善計画でクロモジに品目変更	H28	0	0	10	0	5	0	5	0.15	0	0	0	0	0	0	0	0	20	0.05	0.0%	0.0%	・検討会の開催 ・実証ほの設置(10a)	県や製薬会社等と検討を重ねたものの、品目の選定に時間を要したことでクロモジの栽培を開始できていないため、目標の達成に至っていない。 今後、クロモジの生産に知見のある生産団体や県、製薬会社と連携しながら栽培に取り組みよう、目標達成に向けた改善計画を策定するよう指導する。

産地活性化総合対策事業の茶・薬用作物等地域特産作物体制強化促進事業(地域の生産体制強化・需要創出事業)に関する事業評価

都道府県名	事業実施主体	対象作物	事業費 (うち国費) (千円)	成果目標の具体的な 内容	成果目標の達成状況						事業内容 (具体的な取組内容)	地方農政局長の意見	
					基準年	1年目	2年目	3年目	目標年 (実績)	目標値			達成率
					平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年				(%)
岡山県	美作市茶振興協議会	茶	195 (195)	事業実施年度の事業実施計画における茶栽培面積に対する改植等の実施面積1%以上向上(%) 5.6%(2,790㎡/49,000㎡)	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	100.0%	・検討会の開催 ・台切り3,200㎡	台切りを行った茶園が引き続き適切に管理されており、取組目標を達成した。
				-	-	-	-	-	-	-			
高知県	土佐茶振興協議会	茶	959 (959)	事業実施年度の事業実施計画における茶栽培面積に対する改植等の実施面積1%以上向上(%) 3%(9,071㎡/312,000㎡)	3	3	3	3	3	3	100.0%	・検討会の開催 ・改植2,230㎡、 改植支援2,230㎡、 台切り5,047㎡	改植や台切りを行った茶園が引き続き適切に管理されており、取組目標を達成した。
				-	-	-	-	-	-	-			

別記様式第6号

種苗供給円滑化事業に関する事業評価票

都道府県名	市町村名	事業実施主体名	対象作物名	品種名	事業実施初年度	成果目標の具体的な内容	成果目標の達成状況										具体的な取組内容	地方農政局長（政策統括官、内閣府沖繩総合事務局長）の意見		
							目標の内容	基準年	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目 (目標年)			目標値	達成率
								平成24年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年				
山口県		やまぐちオリジナルユリ振興協議会	花き	ゆり	平成26年度	・山口オリジナル小輪系ゆり「プチシリーズ」の切り花向け球根の供給 【種苗の供給量】オリジナルユリの球根供給量（千球）		57	58	59	85	148	149	168	159	108 【試算】 (261)	210	33.3% 【試算】 (133.8%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検討会の開催</li> <li>・実証ほの設置</li> <li>・ウイルス病対策</li> <li>・種苗生産体制の確立</li> </ul>	<p>切り花向け球根の供給量が目標値に達していない要因は、高単価での販売が可能なロット数の確保に向け、原種球根を再増殖に回しており、切り花向け球根数を少なくしているためである。</p> <p>増産された原種球根を本来の割合で切り花向けに出荷する試算を行ったところ、目標を達成する供給量となる。</p> <p>このことは、事業の趣旨である種苗供給体制の確立が実現され、切り花向け球根の生産・供給体制が十分確保されているものと考えられることから、成果目標が達成されたものと見なす。</p>

別紙様式第5号

新品種・新技術活用産地育成プログラムに関する事業評価票

都道府県名	市町村名	事業実施主体名	対象作物・畜産物名	事業実施初年度	成果目標の具体的な内容	成果目標の達成状況										具体的な取組内容	地方農政局長（生産局長、内閣府沖縄総合事務局長）の意見	
						基準年	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目 (目標年) 令和3年	目標値			達成率
						平成24年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年					
山口県		やまぐちオリジナルユリ振興協議会	花き（ユリ）	平成26年度	販売額25,620千円 (増加販売額20,069千円)	5,551千円	9,423千円	10,337千円	7,141千円	6,560千円	4,841千円	6,895千円	4,526千円	4,526千円 【試算】 (26,177千円)	25,620千円	-5.1% 【試算】 (102.8%)	<p>【H26～H28種苗供給円滑化事業の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・検討会の開催</li> <li>・実証ほの設置</li> <li>・ウイルス病対策</li> <li>・種苗生産体制の確立</li> <li>・消費拡大PR活動</li> </ul>	<p>切り花の販売額の目標値未達要因は、高単価での販売が可能なロット数の確保に向け、原種球根を再増殖に回していることから、切り花生産量が少ない状況であったためである。</p> <p>増産された原種球根を本来の割合で切り花向けに出荷する試算を行ったところ、目標を達成する結果となる。</p> <p>このことは、事業の趣旨である種苗供給体制の確立が実現され、切り花向け球根の生産・供給体制が十分確保されているものと考えられることから、成果目標が達成されたものと見なす。</p>

別記様式第6号

産地活性化総合対策事業（国産花きイノベーション推進事業）に関する事業実施状況報告

	事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の具体的な内容	成果目標の達成状況				具体的な取組内容	事業内容 (検討会構成員、実施回数、実証試験の内容等)	地方農政局長等の意見
				基準年 (計画策定時)	実績 令和3年	目標値	達成度合			
鳥取県	鳥取県花き振興協議会	30年度	主要花き販売額（花壇苗、ストック、シンテッポウユリ）	平成28年 744,730千円	841,205千円	819,203千円	102.6%	○花き関係者の連携への支援	・協議会の開催	花購入金額の減少等により目標を達成していない。今後、目標達成に向けた改善計画を策定するよう指導する。
			鳥取市の家計消費に占める切り花の金額	H25～H29年のうち 中間値3年の平均 11,810円	9,809円	12,991円	75.5%	○フラワーコンテスト・シンポジウム等の開催	・検討会、講演会の開催	
			取組に参加した生産者の品目（花壇苗）出荷額	平成28年 547.6百万円	622.8百万円	602.4百万円	103.3%	○学校・福祉施設等での花育体験推進	・検討会の開催 ・花育体験の実施 ・アンケートの実施	
岡山県	岡山県花き消費拡大実行委員会	30年度	岡山県のばらの生産額	平成28年 4.8億円	4.0億円	5.3億円	75.4%	○花き関係者の連携への支援	・協議会の開催	新型コロナウイルス感染症の影響によるイベントや冠婚葬祭の減少等により目標を達成していない。今後、目標達成に向けた改善計画を策定するよう指導する。
			小ぎくの電照栽培技術の普及面積	平成28年 52a	60a	60a	100.0%	○需要に応じた国産花きの生産及び安定供給技術の実証	・検討会の開催 ・実証の実施 ・マニュアルの作成	
			岡山市の家計消費に占める切り花の金額	H25～H29年のうち 中間値3年の平均 7,081円	6,028円	7,790円	77.3%	○国産花きの需要拡大	・協議会の開催	
			取組に参加した岡山総合花き株式会社の売上高	平成28年 34.3億円	34.3億円	42.2億円	81.2%	○フラワーコンテスト・シンポジウム等の開催	・検討会の開催 ・花文化の展示、講演会の開催 ・アンケートの実施	
広島県	広島花きイノベーション事業推進協議会	30年度	広島県産バラ出荷量	平成29年 1,305千本	1,034千本	1,436千本	72.0%	○花き関係者の連携への支援	・協議会の開催	平成30年の西日本豪雨によるバラ生産者の廃業、新型コロナウイルス感染症の影響によるイベント等の需要減少によって目標を達成していない。今後、目標達成に向けた改善計画を策定するよう指導する。
			県内仕向け花きのうちバラの販売金額	平成29年 192,402千本	154,736千本	211,642千本	73.1%	○国産花きの需要拡大	・検討会の開催	
			取組に参加した生産者の出荷額	平成29年 310,207千本(鉢)	318,352千本(鉢)	341,228千本(鉢)	93.2%	○学校・福祉施設等での花育体験推進	・検討会の開催 ・福祉施設等での福祉園芸体験 ・シンポジウム等の開催	
山口県	山口県花卉園芸推進協議会	30年度	山口県育成オリジナルリンドウ出荷本数	平成29年 15.7万本	13.4万本	17.5万本	76.5%	○花き関係者の連携への支援	・協議会の開催	株当たりの収量の低さ、新型コロナウイルス感染症の影響によるイベントの中止等により目標を達成していない。今後、目標達成に向けた改善計画を策定するよう指導する。
			パンジー・ビオラの出荷率	平成30年 86.4%	0.0%	95.0%	0.0%	○需要に応じた国産花きの生産および安定生産供給技術の実証	・検討会の開催 ・実証の実施	
			オリジナルユリ 単位面積あたり販売用球根数（小球根）	平成30年 25,000球/10a	31,647球/10a	27,500球/10a	115.0%	○需要に応じた国産花きの生産および安定生産供給技術の実証	・検討会の開催 ・実証の実施	
			オリジナルユリの出荷率	平成30年 86.0%	56.3%	94.6%	59.5%	○需要に応じた国産花きの生産および安定生産供給技術の実証	・検討会の開催 ・実証の実施	
			販売協力専門店の販売数量	平成27年 13,319千本	14,279千本	14,700千本	97.1%	○フラワーコンテスト・シンポジウム等の開催 ○学校・福祉施設等での花育体験推進	・検討会の開催 ・いけばな・県産花きの展示、講演会の開催 ・アンケートの実施	
			花育講師の生産者の花苗出荷数量	平成29年 2,640鉢	80,640鉢	2,904鉢	2,776.8%	○学校・福祉施設等での花育体験推進	・検討会の開催 ・花育体験の実施 ・アンケートの実施	

	事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の具体的な内容	成果目標の達成状況				具体的な取組内容	事業内容 (検討会構成員、実施回数、実証試験の内容等)	地方農政局長等の意見
				基準年 (計画策定時)	実績 令和3年	目標値	達成度合			
香川県	花の里かがわ推進委員会	30年度	県オリジナルランキュラスの生産金額	平成28年 71,896千円	123,691千円	79,090千円	156.3%	○花き関係者の連携への支援	・協議会の開催	新型コロナウイルス感染症によって需要が落ち込んだこと、県内出荷率の低迷から目標を達成していない。今後、目標達成に向けた改善計画を策定するよう指導する。
			対象地区の輪ギクの契約出荷比率の増加	平成28年 56%	85%	65%	130.7%	○需要に応じた国産花きの生産及び安定供給技術の実証	・検討会の開催 ・実証の実施 ・マニュアルの作成	
			県オリジナルランキュラスにおける薬化病の発生率の低減	平成28年 15%	6%	12%	200.0%	○産地における病虫害防除技術等の実証	・検討会の開催 ・実証の実施 ・マニュアルの作成	
			高松市の家計消費に占める切り花の金額	平成29年 11,957円	9,294円	13,153円	70.6%	○国産花きの需要拡大	・協議会の開催	
			カーネーション及びランキュラスの生産量	平成28年 6,071千本	6,431千本	6,678千本	96.3%	○学校・福祉施設等での花育体験推進	・検討会の開催 ・花育体験の実施 ・福祉施設等での福祉園芸体験	
			カーネーション及びランキュラスの県内取扱量（県内出荷量）	平成29年 2,350千本	2,019千本	2,585千本	78.1%	○学校・福祉施設等での花育体験推進	・検討会の開催 ・花育体験の実施 ・福祉施設等での福祉園芸体験	
愛媛県	花のえひめづくり推進協議会	30年度	切り花類の出荷量	平成28年 25,000千本	25,300千本	27,500千本	92.0%	○花き関係者の連携への支援	・協議会の開催	高齢化を背景とした農家数の減少、切り花の消費が落ち込み、新型コロナウイルス感染症の影響による需要減少等によって目標を達成していない。今後、目標達成に向けた改善計画を策定するよう指導する。
			新技術（多様な作型の組み合わせ）の普及状況	平成29年 2戸	8戸	8戸	100.0%	○需要に応じた国産花きの生産及び安定供給技術の実証	・検討会の開催 ・実証の実施 ・マニュアルの作成	
			1世帯当たりの切り花の年間支出金額（松山市）	平成28年 6,809円	5,689円	7,490円	75.9%	○フラワーコンテスト・シンポジウム等の開催 ○学校・福祉施設等での花育体験推進	・検討会の開催 ・花文化の展示 ・花育体験の実施 ・アンケートの実施	
			松山市場における株式会社愛媛花市場の花き年間取扱量（県内産）	平成29年 6,067千円	5,908千円	6,674千円	88.5%	○フラワーコンテスト・シンポジウム等の開催	・検討会の開催 ・花文化の展示 ・アンケートの実施	
高知県	高知県園芸品販売拡大協議会（新需要開拓マーケティング協議会）	30年度	高知県園芸農業協同組合連合会における花き出荷量	平成29年 29,307千本	23,367千本	38,000千本	61.4%	○花き関係者の連携への支援	・協議会の開催	高齢化による担い手不足等による生産者及び作付面積の減少、新型コロナウイルス感染症による需要の減少等により目標を達成していない。今後、目標達成に向けた改善計画を策定するよう指導する。
			高知県園芸農業協同組合連合会のトルコギキョウ出荷本数	平成29年 非公表	非公表	平成29園芸年度に対し令和3園芸年度110%	80.8% (対基準年比)	○産地における病虫害防除技術等の実証	・検討会の開催 ・実証の実施 ・マニュアルの作成	
			高知県園芸農業協同組合連合会の市場事故件数の減少	平成29年 非公表	非公表	平成29園芸年度に対し令和3園芸年度事故件数90%	115% (対基準年比)	○生産・加工・流通における日持ち性の向上のための品質管理技術の実証	・検討会の開催 ・実証の実施 ・マニュアルの作成	
			1世帯当たりの切り花消費額（10～3月の合計金額）	H26～H28年の平均 3,246円	3,116円	3,571円	87.2%	○フラワーコンテスト、シンポジウムなどの開催	・検討会の開催 ・花文化の展示	
			株式会社土佐花き園芸市場の販売本数	平成29年 非公表	非公表	平成29年10月～平成30年3月に対して令和3年10月～令和4年3月110%	75.5% (対基準年比)	○フラワーコンテスト、シンポジウムなどの開催	・検討会の開催 ・花文化の展示	